

- 廃炉に関する技術基盤を確立するため、日本原子力研究開発機構（JAEA）が主体となつて、①遠隔操作機器・装置の開発実証施設（モックアップ試験施設）、②放射性物質分析・研究施設の整備・検討が進められている。



JAEA「楡葉遠隔技術開発センターの概要」より作成

2012（平成24）年度補正予算（2013（平成25）年2月26日成立）において、廃炉に関する技術基盤を確立するため、①遠隔操作機器・装置の開発実証施設（モックアップ試験施設）、②放射性物質分析・研究施設の整備費として、850億円が日本原子力研究開発機構（JAEA）に出資されました。

モックアップ試験施設については、2013（平成25）年5月に、立地地点を楡葉町楡葉南工業団地内に決定しました。2015（平成27）年度の運用開始を目指し、2014（平成26）年9月から建設工事に着工しました。正式名称は「楡葉遠隔技術開発センター」です。

分析・研究施設については、2014（平成26）年6月に、立地候補地を福島第一原子力発電所の隣接地に決定。着工に向けて建設計画を検討中です。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

：2015年3月31日